

福島の子ども保養プロジェクト活動

4年レポート

2015 年度



コヨット! とは



「コヨット!」とは、子ども保養プロジェクトの
こどもの☺ ほよの☺ プロジェクトの☺
保養に「来よう!」と誘う意味も含まれています。

■目的

福島の子ども保養プロジェクト(愛称:コヨット!)は、東京電力福島第一原子力発電所の事故による被災地の子どもたちや保護者をケアする具体的な取り組みとして実施してきました。放射能によるさまざまな制約がある日常生活から離れてのびのびと過ごすことで、ストレスを解消したり、他の家族やスタッフと触れ合うことで安心感を得たりすることが、親子関係の安定につながることに大きな意味があります。発災後満5年が過ぎ、住宅地や通学路などの除染も進み、空間線量は低下してきています。また、内部被ばくは食べ物でコントロールできることもわかってきましたが、子育て家庭の不安は解消されているわけではありません。

私たちは、今後のコヨット!の活動は、心の整理や精神的ケアのお手伝いをして、一日でも早い被災の終わりを被災当事者が実感できるよう努めていくことに考えています。

主催は、福島県生活協同組合連合会、福島県ユニセフ協会、福島大学災害復興研究所です。日本生活協同組合連合会をはじめ、全国の生協、日本ユニセフ協会が協力しています。

全国の生協が取り組んでいる「くらし・地域復興応援募金」や協力団体等による募金によって企画・実施されています。

■プロジェクト運営体制



週末保養企画 天童温泉



週末保養企画 遠刈田温泉

■5つのコース

コヨット!では、子どもの年齢や目的に合わせてこれまで5つのコースを設定しています。昨年度から「こども遊び塾」週末保養コースもスタート。いずれのコースも、子どもや保護者が心身両面から保養することを目指しています。

① 週末保養企画 就学前(0歳～小学入学前)の子どもと保護者を対象に、福島県・山形県・宮城県の温泉宿に1泊2日で出かけ、子どもたちの外遊びと家族のリラックスタイムを支援

② 就学児週末保養企画 小学1年生～6年生の子どもたちを対象に、東京ディズニーランドや体験施設等に出かけ、子どもたちの様々な体験を支援

③ 県外受入れ保養企画 全国の受け入れ団体が企画した保養プログラム。小学生以上中学生未満の子どもたちを対象に(参加可能な年齢は各企画による)、長期の休み期間中に実施。2013年4月からは体験型の企画が満載

④ 「子ども遊び塾」週末保養コース
2015年度新規企画として小学校低学年を対象に森の中での自然体験

⑤ おもいっきり!そとあそびコース

幼稚園や保育園の外遊びを支援

■プロジェクト実施状況

(2011年5月9日～2016年3月31日)
(累計企画数: 1,578企画 参加数延べ: 78,439人)

『週末・県外受入れ保養企画』 (2015年4月1日～2016年3月31日)

2015年度 実施状況

① 週末保養企画	62回	参加人数: 1,863人
② 就学児週末保養企画	7回	参加人数: 513人
③ 県外受入れ保養企画	22回	参加人数: 551人

※受入団体名等については10ページ参照

実施期間

週末保養企画	: ほぼ毎週末	1泊2日
就学児週末保養企画	: ほぼ毎月1回	1泊2日
県外受入れ保養企画	: 通年	1泊2日～1週間程度

主な費用

事前打ち合わせ費、参加者およびスタッフの宿泊費、バス借り上げ代、旅行保険費、通信費、会議費、広告費、等。



週末保養企画リゾートインぼなり

週末保養企画 東山温泉



県外受入れ企画 生活協同組合あおもり



県外受入れ企画 長野県生活協同組合連合会



県外受入れ企画 生活協同組合パルシステム茨城



県外受入れ企画 大阪府生活協同組合連合会



県外受入れ企画 コーブえひめ



県外受入れ企画 子どもを応援する会「ほんわか」



県外受入れ企画 富山県生活協同組合連合会



県外受入れ企画 いばらきコープ 生活協同組合協同組合ネットいばらき

2011.12.1～2016.3.31まで 合計企画数: 427企画 参加数延べ: 15,525人

① 週末保養企画	: 289企画	参加数: 10,176人	(うち平日企画: 6企画 参加数: 104人)
② 就学児週末保養企画	: 28企画	参加数: 2,144人	
③ 県外受入れ保養企画	: 110企画	参加数: 3,205人	

『おもいっきり!そとあそび』コース

対象

環境放射線量が高い福島県中通りの保育園・幼稚園の園児

実施団体

主催: 福島県ユニセフ協会/福島県生協連
共催: 福島交通株式会社 福島交通観光株式会社

2015年度 実施状況

期 間	: 2015年4月～2016年3月
企 画	: 96企画
参加人数	: 4,525名(延べ人数)



2011.5.9～2016.3.31まで 合計企画数: 1,151企画 参加数延べ: 62,914人

■週末保養参加者分析から見えてきたこと



コヨット！アドバイザー 西崎 伸子（福島大学行政政策学類教授、災害復興研究所）

コヨットでは、参加者のニーズを把握するために、参加者全員に毎回アンケートを書いていたいただいています。アンケートの目的は、参加者のニーズの変化を理解し、企画に反映させること、このプロジェクトで解決できない問題への対応を、自治体や県・国に求めていくことです。2014年7月～2015年9月に実施した週末保養参加者へのアンケート調

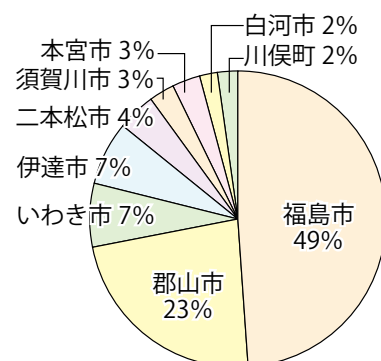
査の結果です。過去3回の調査と比較し、特徴的な事柄を示しました。アンケートには自由記述欄があり、参加者の率直な気持ちが示されています。その一部もご覧ください。

アンケートの集計結果は、以下のHPから全文を見ることができます。

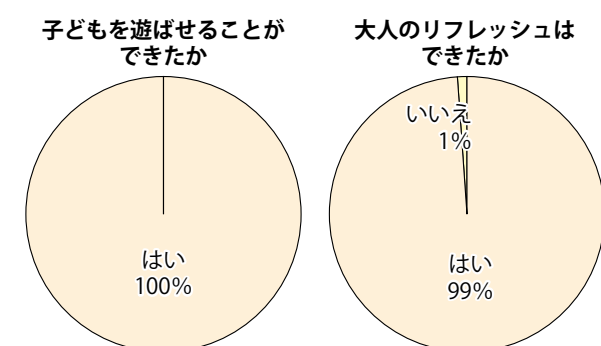
(http://fukushimakenren.sakura.ne.jp/?page_id=597)

1. 現在のお住まいについて

中通りの福島市と郡山市、浜通りのいわき市からの参加が約8割を占める傾向は、前回調査から変わっていません。



3. 保養企画に満足していますか？

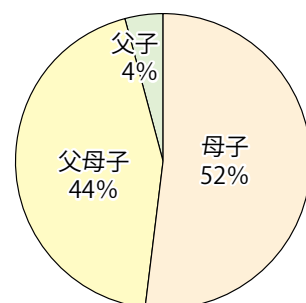


5. 日常で、外遊びをさせていますか？

日常的に「子どもの外遊びをさせていない」割合は前回調査から10ポイント減少しています。

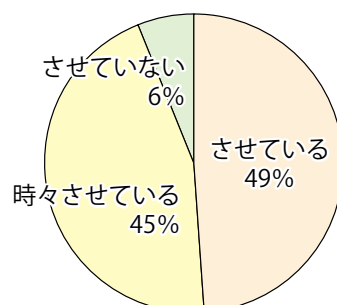
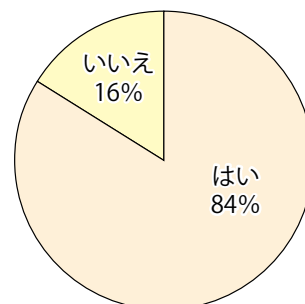
2. 参加者について

「母子」での参加が前回調査時から6ポイント増え、半数を超えました。



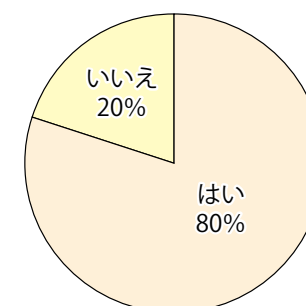
4. 他の参加者との交流はできましたか？

子どもの遊び、大人のリフレッシュは高い満足度です。参加者同士の交流は8割ができています。



6. 放射線に関連した子育ての不安について相談できる相手がいますか？

相談できる割合は前回調査から14ポイント増加しています。とくに「保養で交流ができた友達」「保養で知り合った人」「保養プロジェクトスタッフ」など、保養への参加によって得られた新たな人間関係への記述が複数見られました。



全体を通して

個別の不安は一見解消される傾向にあります。が、原発事故の影響は子育て世代の日常生活や個々の意識にいまなお強く残っています。今後加速化する帰還の動向や、年々参加者数が増している浜通りの地域的特徴、小学生低学年を対象とした保養のニーズをふまえ、子どもたちの外遊びと大人の交流を支える取り組みが必要とされています。



■参加者の声

・生協さんの企画は、食にも親切で安心して応募できます。なかなかアレルギー対策をしてくれる保養は少ないので大変助かります。

・コヨット！開始から何度か参加していてスケジュールにも企画内容にもリラックスできるプランになっていて子ども達も喜んでます。久しぶりに子どもが、思いっきり外遊びができ良かったです。

・コヨット！は子どものために色々なイベント企画をしてくださり子ども達は参加した子どもたち同士友達になり、楽しく1泊2日過ごせました。ずっと継続してほしいです。

・子育てに悩み苦しんでいたときに、コヨット！の活動を知りました。応募して悩み事や心配事が参加して解消されました。全国の皆様のお陰で元気になりました。ありがとうございました。

・子どもも大人もリフレッシュできる企画ばかりで満足しています。スタッフの皆さんも親切に対応し

てください、悩みを聞いてくださって大変助かりました。

・このように5年間も保養を続けている生協さんには感謝します。未就学児の保養は、なかなか無いのでコヨット！企画は大変助かります。なかなか当選できないのが難しいですが……

・とても楽しくて家に帰るのが嫌になりますね。線量を気にすると言うか、その影響がどのように出るのかが気になります。私の生活のやり方や考え方が間違っていたらどうすればよいのかとか、このままで大丈夫なのかとか、頭の中が行ったり来たりしている感じです。それと保養で皆さんに親切にいただいたり、やさしくされると情けない気持ちになったりするときもあります。が、やはり話をしたりすると物凄く癒されます。参加させて頂いて本当にありがとうございました。

・世間はだんだん放射能に対して甘くなっている気がしますが、まだまだ油断できない状況です。これからもコヨット！を続けてください。お願いします。

■コヨット！ スタッフの声

コープあいづ 渡部 光恵

コヨット！には、コープあいづとして約15名のスタッフとして関わってきました。スタッフとして、いつも思う事は子ども達がとてもかわいいと言う事です。あるいちご狩りでは、男の子が大きくて赤いいちごを「おばちゃん食べて！」と差し出してくれました。そのいちごが甘くておいしかった事が忘れられません。本当は、私の方がこども達に癒されているのかも知れません。これからも、母としてスタッフとして子ども達の力になればと思います。

一般スタッフ 野崎 秀寿

ゲーム機の普及により自宅で過ごす子ども達、自宅で遊ぶ子ども達は悪いことではありませんが、自宅以外の場所で得られるさまざまな情報や刺激は、成長期の子ども達にとっても大切なことです。スタッフとして参加すると言う事は、普段の生活では出会わない人々と関わり、より良い人間関係を築く為の経験が出来るよい機会となります。そこに、コ

ヨットの大きな役割があると思います。以前に比べ明るく穏やかな表情を見せる子ども達、様々な方々から応援されている側ですが、いつか「誰かのため」「みんなと共に」と思い一緒に歩む事が出来たら幸せです。

コープクリーン 片野 浩克

のべ7回「コヨット」のお手伝い。主にはバス乗降時に子供達の安全誘導（バスからトイレへの安全誘導）や夕食懇親の進行係。子供たちと保護者が思い切り楽しんでくれて嬉しい。子供たちの笑顔、すてきです。（^^）

日本生協連 佐田 真朗

毎回子どもたちの笑顔に触れ、自分のほうが元気をもらっています。時には、お母さんからのふとしたお話しに、現地の方々の気持ちに気づかされたこともあります。これらかも一緒にさせていただきたいと思っています。

■スタッフ研修会&プレーワーカー養成講座

コヨット!に参加する親子に、より安心して参加いただけるようボランティアスタッフのスキルアップのための研修会やこども遊び塾のプレーワーカーの研修会を随時開催しています。



■県外保養受入れ団体から



東日本大震災発災と原発事故により甚大な被害が発生したことに対し、2011年3月理事会で福島支援を中心に支援活動に取り組むことを確認し、以降様々な形で支援活動に取り組んでいます。同年8月には、今後の支援活動について議論を重ねた結果、被災地での支援とともに福島の家族を富山県にお迎えし、富山の豊かな自然の中でのびのびと外遊び、富山の食と文化と人との繋がりを楽しんで頂くことを確認し、福島の子ども保養プロジェクトに取り組んでいます。生協、地元住民と行政が連携し、9回延べ54家族174名をお迎えしています。

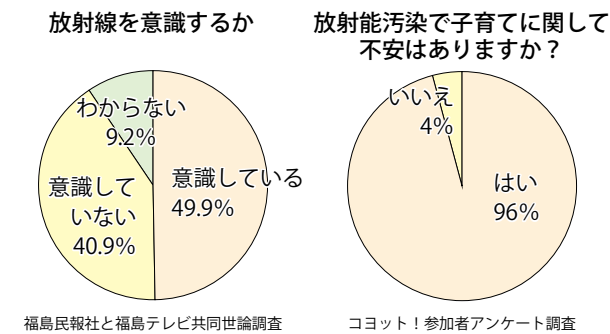
富山県生活協同組合連合会会長理事 清水 文清

被災地の現状はいまだ復興が進んでいる状況とはまだまだ言えず、「忘れない」「被災者に寄り添う心」を大切にしたいとの思いが強い支援が必要と考えています。



■2015年度の活動の特色

2016年3月7日、福島民報と福島テレビが共同で行った「県民世論調査」によると普段の生活で放射線を意識しているかについて質問したところ、意識していると回答したのが49.9%となっています。男性47.8%、女性51.9%と、女性の方が放射能に対して、より敏感になっていることがわかります。「コヨット！」に参加するおかあさんたちも依然として放射能汚染で子育てに不安を感じている方が95%となっています。



コヨット！ ほっこりママ会

除染など物理的な復興は進みながらも、子育てや暮らしなどへの心の不安、精神的なストレスを抱える保護者が多数います。子どもとの遊びや接し方を学びながら、子育て、保養について自由に、楽しくおしゃべりができる場を日本プレイセラピー協会、福島県臨床心理士会と連携して、「コヨット！



ふろしきパラパラレン体験



ハンドクリームお絵かき



ハンドマッサージでリラックス

ママたちにもサポートが必要



「コヨット！ほっこりママ会」は、5年がたった今の福島にはますます必要で貴重な『場』になってきました。と言いますのは、お子さんを連れて避難をされた保護者も入園・入学を機に帰還した方、避難せずにとどまり不安を抱えながら折り合いをつけて生活してきた方、それぞれの立場を超えて、思い切って本音を出して言葉にすることが非常に大切だからです。ネットや



私たちは、放射能と向き合いながら、福島で暮らさざるを得ない、子育てをし続けたいといけいない保護者。人によって放射能に対する考え方や受け止め方が異なる中で、思ったことが言えずに苦悩する保護者をひとりぼっちにさせない、誰も置き去りにしない取り組みも重要であると考え、こうした保護者、特におかあさんたちの心の整理や精神的ケアのお手伝いをして、一日でも早い被災の終わりを被災当事者が実感できるよう努めてまいりたいと考えています。

ほっこりママ会」の場を提供しています。臨床心理士が個別の相談にも応じています。

2016年度からは参加しやすいように「コヨット！ほっこりママ会」と名称を変更し、楽しい企画も取り入れ、未就学児保養企画の参加者以外にも参加を広げたいと考えています。

日本プレイセラピー協会 本田 涼子 氏

外からの情報は沢山ありますが、大事なのは顔を合わせて、一人ひとりが尊重されて話をすること。帰還した人、避難せずにとどまった人、それぞれが、それぞれの知恵を出し合って、ほっと心の荷を下ろせるこの活動はとても重要です。

子育てだけでも大変ななか、5年に渡りいろいろ受け続けているストレスによる蓄積疲労で押しつぶされそうなお母さんを今後もサポートしていきたいです。

こども遊び塾

「コヨット！」に取り組んでから満5年が経過しました。いつまで、この活動を続けていくのか？現在ははっきりと明示できる状況にありません。

私たちは、今後の「コヨット！」の活動が、「そと遊び」にシフトしてくるだろうと考え、県から沼尻県有林を借り受け、地元の森林組合との協同組合間協同の取り組みや「里山の復活活動組織」や「一般社団法人プレーワーカーズ」と連携し、「こども遊び塾」を昨年6月28日に開講しました。2015年度は、6企画176人の参加でした。

震災後、外遊びを制限されて育った小学校低学年から参加できる企画として、たいへん好評です。各自で参集する日帰り企画も今後検討したいと考えています。



自然の中で遊ぶということ



森は子どもにとってキラキラする発見にあふれています。自然の中の動き、例えば焚き火の炎の揺らめき、そよぐ木々…どれひとつとっても機械的な繰り返しはないんです。それが都市の生活では得られないことですね。大人になってからでは決して得られないキラキラしている環境。子どもは自然の中で何でも興味示して、それを見つめる目はキラキラそしてワクワク…この感性形成の時期を私たち大人の責任として決

人間の脳の大脳辺縁系は、食欲などの本能や快感・恐れといった情動に関する機能が集まっています。人間が生命を存続させるために自分の身を守るための機能、自律神経系・免疫系・内分泌系をコントロールする機能があります。この部分は、幼児期に成長すると言われており、屋外で遊ぶことにより、自然から受ける刺激で、より成長が高まるとも言われています。実は、この部分が成長するのは9歳までだということがわかっています。従って東日本大震災の年に生まれた子どもが、満10歳の誕生日を迎える日、2021年3月までが一つの区切りになるのではないかと考えています。

NPO法人プレーワーカーズ代表理事 須永 力氏

して見逃さないこと。それにはまったく、森は子どもにとってジャストサイズ！です。ハイハイヨチヨチの幼児期から外に出て、目に入る刺激は脳にも身体にも良い影響を与えます…だから、やっぱり森へ行こうね。

今年から、そとあそびがあまりできなかった子どもたちのところへ思わず外へ飛び出したくなるような仕掛けをプレーカーに詰め込んで幼稚園や保育園に遊び場の出前にも出掛けて行きます。



お買いものキッチン

週末保養企画開始時の子どもたちが就学期を迎えたことや帰還する方が参加できる小学低学年に対する保養企画の要望に応じ、小学生限定企画を設け、生協共立社の協力で「お買いものキッチン」を実施します。

子どもたちは班に分かれ、話し合いで買うものを決め、実際にお店で買い物をし現金で支払い、協力して調理し、みんなで頂き、後片付けみんなで行います。大人は見守るだけ。

子どもたちの企画を充実させ、保護者を開放し、ほっとする時間、参加した保護者同士が会話できる場を設けていきたいと思っています。



ホームページ (<http://fukushimakenren.sakura.ne.jp>) より動画で企画の様子が見れます

■2015年度福島の子ども保養プロジェクト 収支報告 (2015.4.1～2016.3.31)

収入の部		(単位：円)
科 目	金 額	
くらし応援募金	50,000,000	
日本ユニセフ協会支援金	22,334,747	
その他支援金計	6,321,303	
高知県学校生活協同組合	441,596	
市民生活協同組合 ならコープ	2,844,403	
会津医療生活協同組合	25,144	
埼玉県母親大会連絡会	15,000	
高槻市立高槻小学校PTA	18,790	
アトリエうっ布 ²	25,000	
福島県高齢者大集会実行委員会	30,000	
滋賀県立彦根東高等学校新聞部	271,269	
神奈川県生活協同組合連合会	178,247	
みなと医療生活協同組合	500,000	
生活協同組合おかやまコープ	1,000,000	
平和の杜学園 むつみ幼稚園	358,606	
石川県学校生活協同組合	100,000	
トヨタ生活協同組合	298,648	
その他	214,600	
雑収入計	204,080	
グッズ等売り上げ	204,080	
受取利息	9,972	
収入計	78,870,102	

支出の部		(単位：円)
科 目	金 額	
人件費	8,435,797	
通信費	492,782	
バス代	26,402,230	
宿泊代	24,834,476	
その他旅費	3,536,737	
レポート	1,240,000	
会議費	1,429,048	
保険料	1,978,746	
支払手数料	57,694	
雑費計	3,303,301	
コヨットグッズ代等	329,628	
ビンゴゲーム景品代	41,753	
お菓子代	503,352	
おもちゃ代	107,071	
ホームページ更新他	720,000	
その他	1,601,497	
支出計	71,710,811	
差引残高	7,159,291	

募金の受付口座
東北労働金庫 福島支店 普通預金 6400120
「福島の子ども保養プロジェクト」

福島の子ども保養プロジェクト紹介用ボックスを貸し出いたします。

福島の子ども保養プロジェクトでは、保養プロジェクトの紹介をしていただけるボックスをつくりました。総会やイベント等でご利用下さい。

スーツケースにて発送します。送料については借り側負担になります。お申し込み方法等、詳しくはHPを御覧ください。



私たちはこのようにして支援活動をしています。

さいたま市 むつみ幼稚園

毎年、3月に「福島を忘れない日」と位置づけをし、むつみ幼稚園園長先生を中心に「お母さんの会」「おやじの会」や卒園生のお母さん達にもお手伝い頂き、髪飾り・巾着・チョコバナナなどを販売し、その売上金を福島の子ども保養プロジェクトの活動資金に支援しています。

福島の子ども達も何も気にせず自由に思いっきりのびのびと楽しめる日が来ることを願っています。



■支援をしてくださったみなさま



福島県外受入企画による支援

(2015年4月1日～2016年3月31日)

2015年

6/27~28 いばらきどきどき体験ツアー (第15回) いばらきコープ 生活協同組合/協同組合ネットいばらき	8/19~21 2015 コヨット! in 埼玉 埼玉県生活協同組合連合会/埼玉県ユニセフ協会
7/21~24 コヨット! in ながの チャレンジキャンプ 長野県生活協同組合連合会	10/31~ 11/1 いばらきどきどき体験ツアー (第16回) いばらきコープ 生活協同組合/協同組合ネットいばらき
7/23~30 ほんわかのびのびinはこだて2015 被災地の子どもを支援する会「ほんわか」	11/28~29 いばらきどきどき体験ツアー (第17回) いばらきコープ 生活協同組合/協同組合ネットいばらき
7/24~27 福島の子ども保養プロジェクト in なら 市民生活協同組合ならコープ	12/12~13 福島の子ども保養プロジェクト in 茨城 生活協同組合パルシステム茨城
7/25~27 福島の子ども保養プロジェクト in ぐんま 生活協同組合コープぐんま	
7/26~30 福島の子ども保養プロジェクト in よしまキャンプ 生活協同組合コープこうべ/神戸YMCA/兵庫県ユニセフ協会	
7/26~28 子ども保養プロジェクトin新潟 新潟県生活協同組合連合会	
7/29~31 コヨット! in あきた 生活協同組合コープあきた	
8/2~3 コープあおもり ねぶたツアー 生活協同組合コープあおもり	
8/6~8 福島の子ども保養プロジェクトinみえ 生活協同組合コープみえ	
8/7~9 福島の子ども保養プロジェクトinとやま2015夏(朝日町) 富山県生活協同組合連合会	
8/18~21 コヨット! in おおさか 2015夏 大阪府生活協同組合連合会	



子ども保養プロジェクト in 新潟



福島の子ども保養プロジェクト in 神奈川



福島の子ども保養プロジェクト in よしまキャンプ



コヨット! in ながさき 2015



福島の子ども保養プロジェクト in みえ



福島の子ども保養プロジェクト in あきた



2015 コヨット! in 埼玉



福島の子ども保養プロジェクト in なら



福島の子ども保養プロジェクト in ぐんま

大震災を経験した福島の子どもたちとコヨット! で出会った熊本の友だちとあったか〜い絆が…

2016/3/28~30 コヨット! in くまもと 生活協同組合くまもと

2016年3月28日から30日にかけて、「コヨットinくまもと」が開催されました。

福島からは11人の子どもたちが、熊本県芦北町の「あしきた青年の家」で、熊本から公募で参加した子どもたち14人と一緒に寝泊まりしながら、スポーツや甘夏狩りなどを楽しみました。

それから3週間に満たない4月14日と16日に震度7という記録的な大地震が熊本を襲いました。

「コヨットinくまもと」に参加した福島の子どもたちから、心配の声が上がり、さっそく激励のお手紙を自筆で書いていただき、1枚の大きな紙にまとめました。

福島の子どもたちからは、「ぼくたちと同じ地震を経験されたことでしょう。でもぼくたちも大地震を経験しているのに、いつも明るく暮らしているので、熊本のみなさんも明るく過ごしてください」「何日も大きくゆれて、とてもこわい思いをしていると思いますが、必ず元通りの生活ができるようになるので、つらい時こそ、笑顔でがんばってください…」といったメッセージが並んでいます。

そのメッセージを見て、生協くまもとの組合員さんから



は、「生協さんの絆の強さ、偉大さ、改めて素晴らしいと感じた」「熊本と福島と遠く離れていても自分の事として受け止める優しさを持った子どもたちに大人が背中を押される」「つながっているんですね。想いが近づいた」「辛い思いをした人は、優しくて強くて助け合える人になる」といったたくさんのコメントが寄せられ、また、一緒に遊んだ熊本の子どもたちから、心配している福島の子どもたちに向けた返信メッセージも寄せられました。

「大きい地震で学校も休みになり、友達とも会えずに外でも遊べず悲しかったけど、みんなからメッセージが届いていると聞いて、すごく元気づけられたし、みんなとすごした楽しい時間を思い出したら笑顔になれました」「…車や避難所で寝たり、津波警報が出たので家族で逃げました。僕も地震に負けないようにがんばるので、福島のみなさんがんばってください。そしてまた、元気にみんなと会いたいです。遠くても、空はつながっているから…」といったメッセージが並んでいます。

大地震により、生活環境が一変してしまった子どもたち、熊本も福島も一緒です。

辛い環境下であっても、思いと思いがつながって大きなパワーになるということを体感しました。ことばがでないほどの感動です。

大地震という同じ経験をした子どもたちは、次の社会を生み出すためのパワーを私たちに示してくれています。

次代を担う子どもたちの目線で、これからも熊本と協力して、両県の復興・再生にともに心と力を寄せ合って、がんばっていきたいです。



いばらきどきどき体験ツアー (第17回)



コープあおもり ねぶたツアー



2016春 コヨット! in えひめ



コヨット! in おおさか



子ども保養プロジェクト in 新潟



ほんわかのびのび in はこだて2015



2015 コヨット! in 埼玉



福島の子ども保養プロジェクトin 神奈川

日本生活協同組合連合会
公益財団法人日本ユニセフ協会
認定NPO法人
世界の子どものワクチンを 日本委員会
株式会社 ポケモン

その他団体

日本労働組合総連合会福島県連合会
福島県労働福祉協議会
東北労働金庫福島県本部
全労済福島県本部
福島県農業協同組合中央会
福島県漁業協同組合連合会
福島県森林組合連合会
磐梯高原リゾート・インぼなり
協和交通株式会社
JTB東北 法人営業福島支店
福島交通観光株式会社
株式会社 SAGA DESIGN SEEDS
新潟県労働金庫
石川県立飯田高等学校
滋賀県立彦根東高等学校新聞部
政田農園
トトロの里富原観光果樹園

生協関連

福島県生活協同組合連合会会員生協
コープふくしま、コープあいづ、
福島県南生協、パルシステム福
島、あいコープふくしま、福島医
療生協、きらり健康生協、郡山医
療生協、会津医療生協、浜通り医
療生協、福島県学校生協、福島大
学生協、福島県労済生協
生活協同組合コープさっぽろ
北海道学校生活協同組合
生活協同組合コープあおもり
青森県生活協同組合連合会
青森県民生活協同組合
青森県庁消費生活協同組合
生活協同組合コープあきた
秋田県北生活協同組合
みやぎ生活協同組合
宮城県生活協同組合連合会

生活協同組合共立社
山形県生活協同組合連合会
いばらきコープ生活協同組合
生活協同組合パルシステム茨城
茨城県生活協同組合連合会
茨城県学校生活協同組合
とちぎコープ生活協同組合
生活協同組合コープぐんま
生活協同組合パルシステム千葉
千葉県生活協同組合連合会
生活協同組合コープみらい
生活協同組合連合会コープネット事業連合
埼玉県生活協同組合連合会
東京都生活協同組合連合会
東都生活協同組合
東京南部生活協同組合
北区・荒川区・足立区生協連絡会
農林水産省職員生活協同組合
生活協同組合・消費者住宅センター
生活協同組合ユーコープ
生活協同組合うらがCO-OP
富士フイルム生活協同組合
神奈川県生活協同組合連合会
川崎医療生活協同組合
全日本海員生活協同組合
生活協同組合コープながの
長野県生活協同組合連合会
生活協同組合コープにいがた
富山県生活協同組合
生活協同組合コープいしかわ
生活協同組合連合会 コープ北陸事業連合
福井県民生活協同組合
福井県生活協同組合連合会
生活協同組合コープあいち
みなと医療生活協同組合
生活協同組合コープぎふ
生活協同組合コープみえ
生活協同組合コープしが
滋賀県生活協同組合連合会
わかやま市民生活協同組合
京都生活協同組合
大阪いずみ市民生活協同組合
大阪よどがわ市民生活協同組合
生活協同組合おおさかパルコープ

大阪府生活協同組合連合会
市民生活協同組合ならコープ
生活協同組合コープこうべ
日立造船因島生活協同組合
三井造船生活協同組合
生活協同組合ひろしま
生活協同組合連合会 コープ中国四国事業連合
鳥取県生活協同組合
生活協同組合しまね
生活協同組合コープやまぐち
山口県生活協同組合連合会
生活協同組合コープかがわ
香川県庁消費生活協同組合
生活協同組合とくしま生協
愛媛県生活協同組合連合会
生活協同組合コープえひめ
こうち生活協同組合
高知県学校生活協同組合
高知県生活協同組合連合会
生活協同組合連合会 コープ九州事業連合
エフコープ生活協同組合
福岡県学校生活協同組合
コープさが生活協同組合
生活協同組合ララコープ
福祉生活協同組合いきいきコープ
生活協同組合コープおおいた
大分県学校生活協同組合
生活協同組合コープみやざき
生活協同組合くまもと
生活協同組合コープかごしま
生活協同組合コープおきなわ
日本生活協同組合連合会
日本コープ共済生活協同組合連合会
全国学校用品株式会社
株式会社コープクリーン
コープ情報システム株式会社
日生協企業年金基金
日生協健康保険組合
日生協本部健康保険委員会
れいんぼーくらぶ
公益財団法人生協総合研究所
国際協同組合同盟 (ICA)
協同組合ネットいばらき
全国消費者団体連絡会

ボランティアスタッフ支援

生活協同組合パルシステム神奈川ゆめコープ、生活協
同組合コープみえ、生活協同組合共立社、みやぎ生活
協同組合、日本医療福祉生活協同組合連合会、日本生
活協同組合連合会

物資提供による支援

(2015年度)

商品:米(吾妻の輝き) 1t
JAふくしま未来
(旧JA新ふくしま)



発行元

福島の子ども保養プロジェクト (福島県生活協同組合連合会内)

〒960-8105 福島県福島市仲間町 4-8 ラコパふくしま 4 階 TEL 024-522-5334 FAX 024-522-2295
コヨット! 公式ウェブサイト <http://fukushimakenren.sakura.ne.jp/>